

A group of people, many wearing orange safety jackets and white hard hats, are gathered in a forest. They appear to be engaged in a site inspection or a meeting. The forest consists of tall, thin trees, likely pines or cypresses. The ground is uneven and appears to be a cleared area or a path. The overall scene is outdoors and well-lit, suggesting a sunny day.

平成31年度 四万十森林管理署 重点施策

平成31年1月 日向山国有林列状間伐現地検討会

① 木材の安定供給への取組

- 平成31年度の原木生産量**59,000m³**を確保
- 新たに四万十市西土佐に中間土場を整備し、松葉川土場(四万十町)と併せ中間土場を活用した**民有林と国有林の連携による国産材の安定供給を推進**

■ 30年度生産事業現場の様子
(四万十市 赤松国有林)



■ スtockヤード(土場)の
整備箇所



■ 整備予定の西土佐土場
(四万十市西土佐)



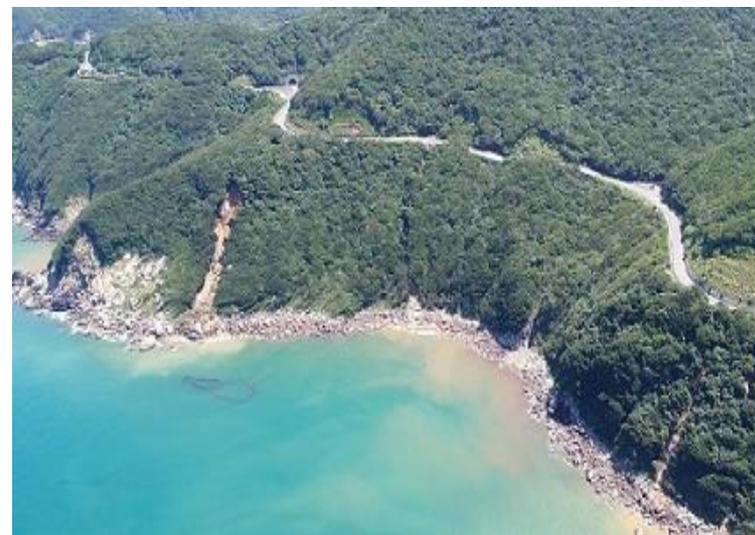
② 地域の安全・安心を守る災害・治山対策の強化

- 平成30年7月豪雨等による山地災害復旧事業、治山事業の拡大実施

■平成31年度事業予定(四万十署管内)

■大月町の災害現場

	治山事業	山地災害復旧事業
予定箇所	<u>東大戸山Ⅰ(大月町)</u> 、 <u>東大戸山Ⅱ</u> 、 <u>蛇谷山(土佐清水市)</u> 、 <u>大森山Ⅰ(三原村)</u> 、 <u>大森山Ⅱ</u> 、 <u>長崎山(四万十市)</u> 、 <u>猿屋谷山(四万十市)</u> 、 <u>上灘山(黒潮町)</u> 、 <u>釣石山(四万十町)</u>	篠宇津山(大月町)、伊勢谷山(大月町)、弦場山(大月町)
計	9箇所 (3.8億円)	3箇所 (1.9億円)



※下線は平成31年度新規地区

③ 地域の森林・林業を担う人材育成

- 林業技術に関する「現地検討会」や「ドローン講習会」を開催し、市町村、林業事業者等の技術力の向上を推進

■ 平成31年度現地検討会の開催計画

時期	テーマ	場所	主催
7月	「ICTを活用したニホンジカ捕獲現地検討会」	高知県梶原町 松原国有林	四万十森林管理署
11月	「低コスト林業現地検討会」	高知県四万十市 黒尊山国有林	四万十森林管理署

※ 上記は、現地事情や事業進捗状況等により追加や変更する場合があります。

■ 平成30年度現地検討会・ドローン講習会の様子



下刈り省力化現地検討会



一貫作業システム現地検討会



ドローン講習会

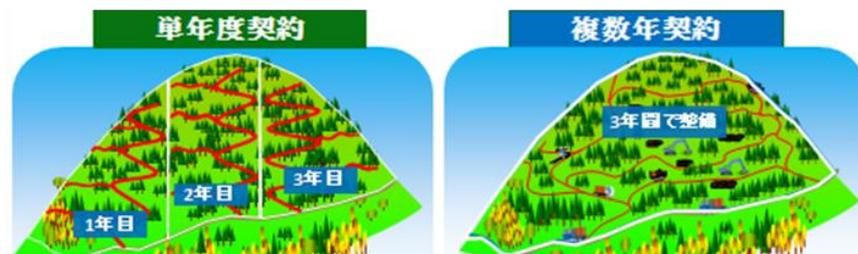
④ 林業コスト削減対策

- 一貫作業(伐採・搬出から植栽の作業を一括発注)の導入拡大(2地区)
- 複数年契約(これらの作業を複数年(3年以内)で発注)の導入拡大(4地区)
- 下刈りの省力化(隔年下刈り等)・弾力化(作業期間を6～10月に拡大し冬下刈本格導入)
- 列状間伐の積極導入

■一貫作業システムと従来システム



■複数年契約による森林整備



■列状間伐の様子(黒潮町 日向山国有林)



■平成31年度一貫作業、複数年契約実施予定地区

一貫作業システム	複数年契約
<ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町 郷ノ谷山(9.88ha、混合契約) ・四万十市 黒尊山(5.54ha、混合契約) 	<ul style="list-style-type: none"> ・梶原町 五郎畑山(147ha、H29～31) ・宿毛市 惣師山(123ha、H29～31) ・梶原町 高串山(86ha、H30～32) ・四万十市 黒尊山(179ha、H31～32)

⑤ ドローン・ICTの新技术の積極導入

- 新規3台を含むドローン7台を配備し、山地災害対策、森林資源調査、シカ被害対策等に積極活用
- GNSS(衛星測位システム)による収穫調査の周囲測量を導入
- 簡易無線通信を活用したシカわな遠隔捕獲通知システムの開発・実証(栲原町でわな設置数を20基程度に拡大)

■ドローンによる災害調査の様子



■簡易無線通信を活用したシカのわな遠隔捕獲通知システム



⑥ 夢の早生樹コウヨウザン三世代プロジェクト

- 土佐清水市のコウヨウザン試験地にて、県・森林総研と連携し、コウヨウザンの萌芽更新・育林による生産技術の確立を推進

コウヨウザンとは

- 中国・台湾原産のヒノキ科の針葉樹
- 生長が早く、材質強度はヒノキ程度の早生樹
- 切り株から芽が出て萌芽更新で生長するため再造林が不要
(参考) 造林経費: 地拵え30万円/ha、植栽61万円/ha、下刈75万円/ha
- 土佐清水市に昭和7年に植栽し第二世代が成林している国内唯一の試験地(辛川山0.3ha)
- 第二世代の間伐木の強度は、他の地域のコウヨウザンと同程度、燃焼性はヒノキとほぼ同等



左の株跡から再び
萌芽が発生 →
(第三世代)

← 平成元年に萌芽
更新した第二世代
のコウヨウザン



⑦ 地域の課題への対応

- 「土佐備長炭ウバメガシ資源確保プロジェクト」の推進
- 「三原米の里多様な森林づくり活動」の推進
- 不入山の四万十源流の森風致探勝林(津野町)の案内板の整備(H31年度)
- 入野松原(黒潮町)の保全(松くい虫防除対策)

■「ウバメガシ資源確保プロジェクト」

■県西部(大月町国有林)

・ウバメガシ林の択伐・更新による原木生産技術の確立(和歌山県方式、更新・収穫まで15年程度)

■県東部(東洋町国有林)

・スギ・ヒノキの伐採跡地へのウバメガシ苗木植栽・育林(約2000本)による原木生産技術の確立(収穫まで30~40年程度)

土佐備長炭の原料のウバメガシの資源確保

■三原米の里多様な森林づくりのイメージ

人工林でも、斜面上部の成績不良地や施業不適正地は、針広混交林へ誘導

林道から近く施業条件の良い箇所は主伐再造林

沢筋に保護樹帯を設置し、針広混交林へと誘導

